

西宮東高等学校木曜講座「生で聴くルネサンスの音楽④

～宗教改革期に輝く双星・ダウランドとパレストリーナ～

2025 年 11 月 27 日 なるお文化ホール

「生で聴くルネサンスの音楽」シリーズも 4 回目を数えました。今回は、ルネサンス後期の二人の大作曲家、ジョン・ダウランド（1563-1626）とジョヴァンニ・ピエルルイージ・ダ・パレストリーナ（1525 頃-1594）を取り上げます。

この二人は、一見、とても対照的に見えます。ダウランドはエリザベス女王 1 世の頃の家で、エリザベスへの「おべっか」とも取れる歌をいくつも作曲しています。いかにも宮廷作曲家の地位が欲しそうな印象ですが、ダウランドはなかなか、英国の宮廷作曲家にはなれませんでした。彼はデンマークなど各国を渡り歩き、主に恋の歌などの世俗曲を作曲します。これに対して、パレストリーナはカトリックの総本山のローマ教皇庁から厚い信頼を得ており、教会音楽を数多く作曲しています。当時の音楽のパトロンと言え、**「宮廷」か「教会」**です。その意味では、教会から信頼されていたパレストリーナは「音楽の成功者」であり、ダウランドは「音楽では大成しなかった人」とみなすのが一般的な感覚でしょう。

しかし、じつは接点のまるでないように見える **この二人を結びつける「糸」**があったのです。16 世紀のはじめから西洋を震撼させ、多くの人の命を奪うこともあった **「宗教改革」**がその**糸**だったのです。

この講座は前半（①～⑨）でダウランドの作品を演奏し、後半（⑩～⑬）はパレストリーナを演奏します。最後まで、じっくりと音楽と解説をお楽しみ下さい。

Chorus Jovis 監修 中井 英文

①ご婦人方には素敵な掘り出し物

Fine knacks for ladies, cheap, choice, brave and new,

Good pennyworths but money cannot move,

I keep a fair but for the fair to view,

A beggar may be liberal of love.

Though all my wares be trash, the heart is true.

Great gifts are guiles and look for gifts again,

My trifles come as treasures from my mind,

It is a precious jewel to be plain,

Sometimes in shell the Orient's pearls we find.

Of others take a sheaf, of me a grain.

Within this pack pins, points, laces and gloves,

And divers toys fitting a country fair,

But in my heart, where duty serves and loves,

Turtles and twins, Court's brood, a heav'nly pair.

Happy the heart that thinks of no removes.

さあ、寄ってらっしゃい、ご婦人方には素敵な掘り出し物ですぞ、安くて高品質で新しい、いい買い物ですよ。お買い得品なのですが、じつはお金だけじゃ買えません。あっしは美しい品は美人のためだけに取っておくんですよ。こんな乞食同然のあっしにだって、愛する権利ぐらいはありまさあ。仮にあっしの商品がみんなゴミくずであったとしても、あっしの心は本物ですからね。立派な贈り物をもらっても、すぐに飽きて次から次へと欲しくなります。でもあっしん所の粗末な品物は、あっしの真心からのものなんで、きっと宝物になります。飾らないことは、ひとつの宝石ですからね。あっしの所の貝殻にも、時に東洋の真珠が見つかるってもんではあ。大量に東で欲しいならよそへ行って下さい、うちは麦粒ほどの宝を売ってます。この袋の中にゃ、ピンや紐、レース、手袋、その他地域の美人に打って付けの品が詰まっています。でもあっしの心にゃあ、キジバトやふたご、宮廷の血筋、天上の夫婦といった尊い物への敬愛の心が詰まってまさあ。そういうものを大切にする人は、幸せ者ですわね。

Fine 良い knacks おもちゃ for～にとって ladies ご婦人方 cheap 安い choice 選択 brave 優れた(古語)and

そして new 新しい Good 良い pennyworths お買い得品 but でも money お金が cannot～できない move 動か

す I 私は keep 取っておく a fair 美しいものを but ただ for～のために the fair 美女 to view 目にするところの

A beggar 乞食は may ～しても良い be～である liberal 自由だ of love 愛について Though 仮に～であっても

(古語) all 全ての my 私の wares 商品 be～である trash ゴミ the heart 心は is～である true 本物 Great 立派

な gifts 贈り物 are～である guiles 偽り and そして look for～を探し求める gifts 贈り物を again 再び My 私

の trifles 些細なもの come やって来る as～として treasures 宝物 from～から my 私の mind 心 It (to 以下の

部分を主語とする形式主語) is ～である a precious 貴重な jewel 宝石 to be～であることは plain 飾らない

Sometimes 時々 in～に shell 貝殻 the Orient's 東洋の pearls 真珠を we 我々は find 見出す Of～から others よ

その店 take 買いなさい a sheaf (穀物の) 束 of～からは me 私 a grain 麦粒を

Within～の中に this この pack 包み pins ピン points 紐 laces レース and や gloves 手袋 And そして divers
多様な（現代語 diverse の古いスペルだが、「ダイヴァース」ではなく「ダイヴァーズ」と発音する）
toys ささいな物 fitting ～にぴったりの a country 地域の fair 美人 But でも in～の中には my 私の heart
心 where（関係副詞）heart を受けて「そこでは」 duty 敬意の心が serves 奉仕し and そして loves 愛す
る Turtles キジバト（恋人・夫婦の象徴、現代語 turtle doves） and や twins ふたご Court's 宮廷の brood
血筋 a heav'nly 天上の pair 夫婦 Happy 幸せだ the heart 人（心）は that（関係代名詞）thinks of～につ
いて考える no～しない removes 取り除く（The heart that thinks of no removes is happy.を押韻のため
に倒置文にし（Happy is the heart that thinks of no removes.）、さらに is を省略している。）

②流れよ、我が涙よ

Flow, my tears, fall from your springs!
Exiled for ever, let me mourn;
Where night's black bird her sad infamy sings,
There let me live forlorn.

Down vain lights, shine you no more!
No nights are dark enough for those
That in despair their last fortunes deplore.
Light doth but shame disclose.

Never may my woes be relieved,
Since pity is fled;
And tears and sighs and groans my weary days
Of all joys have deprived.

From the highest spire of contentment
My fortune is thrown;
And fear and grief and pain for my deserts
Are my hopes, since hope is gone.

Hark! you shadows that in darkness dwell,
Learn to contemn light
Happy, happy they that in hell
Feel not the world's despite.

流れよ、我が涙よ。汝のみなもとから落ちてくるが良い。
永遠に浮世から追放されしこの身、存分に嘆かせてくれ。
夜の黒鳥が我が悲しい汚名を歌うところで、
うち捨てられたこの身を生きながらえさせてくれ。

行け、虚しい光よ、もう二度と輝いてはならぬ。
どんな夜よりも深い暗闇は、
絶望のただ中でおのれの不運を嘆き悲しむ者たちだ。
光は、ただ彼らの恥を明るみに出しているのに過ぎない。

我が苦痛は決していやされることはない、
なぜなら憐れみは逃げ去ってしまったからだ、
それに涙やため息、うめき声が、疲れ切った我が日々から
喜びを残らず奪い去ってしまったのである。

満ち足りた人生の最高の頂点から
わが幸運は投げ捨てられてしまったのだ。
「希望」が消えてしまった今となっては、恐れや悲しみ、
痛みこそが人生の不毛地帯の「希望」となってしまった。

聴け、汝ら暗闇に巣くう影どもよ、
光を軽蔑するすべを学ぶが良い。
幸せ者なのだ、地獄のなかにいるので
もはや世界からの軽蔑すら感じない者というものは。

Flow 流れよ my 私の tears 涙よ fall 越智よ from ～から your お前の springs! 泉 Exiled 追放された for ever
永遠に (forever と綴る。) let～させてくれ me 私に mourn; 嘆くのを Where～の場所には night's 夜の
black 黒い bird 鳥が her その sad 悲しい infamy 汚名、不名誉を sings 歌う (本来の語順は目的語 sad infamy
の前で、押韻のために倒置。) There そこで let～させてくれ me 私に live 生きる forlorn 見捨てられたまま
Down 行け(古語) vain 虚しい lights 光よ shine 輝かせよ you お前たち自身を no more! もはやない No どん
な～もない nights 夜 are～である dark 暗い enough for～に十分である those That～するところの人たち
in ～において despair 絶望 their 彼らの lost 失われた fortunes 幸運を deplore. 嘆き悲しむ (やはり押韻の
ために目的語より後に置かれている) Light 光は doth～している (後の動詞 disclose を強調する古語の動
詞。現代風のスペルは does。) but～だけ shame 恥を disclose. 明るみに出す (これも倒置。) Never 決して
～ない may～して良い my 私の woes 苦痛 be (受け身の意味) relieved 解放された Since なぜなら pity
憐れみは is (「移動」の完了形は have でなく be 動詞で表される) fled; 逃げてしまった And そして tears
涙 and と sighs ため息 and と groans うめき声 my 私の weary 疲れ切った days 日々から Of～を all 全ての
の joys 喜び have deprived. 奪った (deprive A of B 「A から B を奪う」、やはり押韻のために倒置。) From
～から the highest 最高の spire 頂上 of～の contentment 満足 My 私の fortune 幸運は is thrown; 投げられ
た And そして fear 恐れ and と grief 悲しみ and と pain 痛みが for～にとっては my 私の deserts 砂漠、不
毛地帯 Are～である my 私の hopes 希望なのだ since なぜなら hope 希望が is gone. 去ってしまった (be
動詞を使う「移動」の完了形) Hark! 聴け you お前たち shadows 影よ that (関係代名詞) in darkness 暗
闇で dwell 暮らす Learn 学べ to contemn 軽蔑することを light 光を Happy, happy 幸せなのだ they that
～する者は in hell 地獄で Feel not 感じない (現代語 do not feel) the world's 世界の despite. 軽蔑を
(They that in hell feel not the world's despite are happy. を押韻のために倒置、Happy are they that in hell
feel not the world's despite. とし、さらに are を省略。)

③もし罪びとのため息が

If that a sinner's sighs be Angel's food,
Or that repentant tears be Angel's wine,
Accept, O Lord, in this most pensive mood,
These hearty sighs and doleful plaints of mine,
That went with Peter forth most sinfully:
But not as Peter did, weep, weep bitterly.

もし罪びとのため息が天使の食べ物であったとしたら、

もしくは後悔の涙が天使のぶどう酒であったのならば、

ああ主よ、この重く沈み込んだ心のうちの

私の心からのため息と悲痛な嘆きを受け容れよ。

私は主を裏切ったペテロと同じく、極めて罪深い歩みを

前に進めた、しかしペテロのように後悔しなかった、

彼のように激しく泣くことはなかったのだ。

If that もし〜だとしたら（「仮定・願望」を表す古語の that。） a sinner's 罪びとの sighs ため息 be〜である（仮
定法現在で原形となっている） Angel's 天使の food 食べ物 Or もしくは that （「仮定・願望」を表す古語の
that。） repentant 後悔の tears 涙が be 〜である Angel's 天使の wine ぶどう酒 Accept 受け容れよ O ああ Lord
主よ in〜において this この most 最も pensive 深く考え込んだ（仏語 penser「考える」から） mood 気分 These
この hearty 心からの sighs ため息 and と doleful 悲痛な plaints 嘆き of mine 私の That（関係代名詞、「私は」）
went 前進した（後の forth との熟語） with 〜とともに Peter ペテロ。（イエスの弟子で、イエスを裏切ったこ
とを後悔して泣いた「ペテロの悔恨」で有名。） forth（前出）most 最も sinfully:罪深く But しかし not as〜の
ようではなく Peter ペテロが did やった, weep, weep 泣く bitterly.激しく

④あの人の顔は百合のように

1 White as lilies was her face:
When she smiled
She beguiled,
Quitting faith with foul disgrace.
Virtue's service thus neglected.
Heart with sorrows hath infected.

2 When I swore my heart her own,
She disdainèd;
I complainèd,
Yet she left me overthrown:
Careless of my bitter grieving,
Ruthless, bent to no relieving.

3 Vows and oaths and faith assured,
Constant ever,
Changing never,
Yet she could not be procured
To believe my pains exceeding
From her scant respect proceeding.

4 O that love should have the art,
By surmises,
And disguises,
To destroy a faithful heart;
Or that wanton-looking women
Should reward their friends as foemen.

5 All in vain is ladies' love --
Quickly choosèd.
Shortly loosèd;
For their pride is to remove.
Out, alas! their looks first won us,
And their pride hath straight undone us.

6 To thyself, the sweetest Fair!
Thou hast wounded,
And confounded
Changeless faith with foul despair;
And my service hast envièd

あの人の顔は純潔のシンボルである百合のように白かった、
しかし彼女が微笑んだ時には
じつは欺いていたのだ、
汚れた不名誉と引き換えに自分への信頼を投げ捨てていたのである。
私が紳士らしく彼女に献身したことは、かくして無視された。
私の心は、悲しみによって汚されてしまった。

「私の心はあなたのものだ」とあの人に誓ったが、
彼女は私をさげすみ、
私は不満を訴えた。
それでも彼女は私を捨てたまま放置したのだ、
私のひどい悲しみなど一顧だにせず、
無慈悲で、不誠実にも私の苦しみを和らげようとはしなかった。

彼女への約束と誓いと信頼は、こんな風に述べた、
「私の心はずっとそのままだ」
「何も変わることはない」
それでも彼女を動かすことはできなかった、
分らせることができなかったのだ、私の並外れた苦痛の原因は
彼女がずっと私への敬意を欠いていたためだ、ということ。

ああ、恋というものはこんなに複雑な技巧を身に付けているもの
か、
いい加減な憶測や
偽造によって
忠実な心をぶち壊すための技巧というものを。
それとも、気まぐれな顔つきをしたご婦人方は
友人たちを敵として恩を仇で返す、とでも言うのだろうか。

全ては無駄に終わるものだ、ご婦人方の恋沙汰というものは。
恋人は素早く選ばれるが、
あっけなく放り出される。
なぜならば、彼女たちの誇りは「取り除く」ことにあるからだ。
終わりなのだ、ああ！初めは女たちのまなごしは男たちを射止める
が、これに反して女たちの誇りは躊躇なく恋を撤回してしまうの
だ。

あなた自身に語ろう、最愛の美しい人よ。
あなたは傷つけ、
打ち負かしたのだ、
私の変わらぬ誠意を醜い絶望によって。
そして私の献身的な姿勢を憎み

And my succours hast denied.

7 By thine error thou hast lost

Heart unfeigned,

Truth unstained.

And the swain that loved most,

More assured in love than many,

Move despised in love than any.

8 For my heart, though set at nought,

Since you will it,

Spoil and kill it!

I will never change my thought:

But grieve that beauty e'er was born

And so I'll live as one forlorn

私を助けることを拒んだのだ。

あなたの過ちによって、あなたは失ったのだ、

偽りなき心を、

穢れなき真実を、

そしてあなたを最も愛した男をだ、

多くの者よりも恋に徹していた、

そして誰よりも恋において軽蔑を受けた男をだ。

なぜなら我が心は、もはや空っぽとは言え、

あなたが望むのならば

我が心を壊してこの世から消してしまおう。

私が考えを変えることは決してないだろう、

しかし嘆くだけで、こんな美女がかつて生まれてしまったことを。

そしてこれからも孤独な者として私は生きてゆく。

White 白い（倒置文。これが主語ではない。） as～のように lilies 百合 was～だった her 彼女の face:顔は

（主語） When ～の時に she 彼女が smiled 微笑んだ She 彼女は beguiled 欺いていた Quitting 放棄し

ながら faith 信頼を with ～で foul 汚れた disgrace.不名誉 Virtue's 美德の service 献身は thus このように

して neglected.無視された Heart 心は with～で sorrows 悲しみ hath（現代語 has、完了形を作る。）

infected.汚染した When ～の時に I 私は swore 誓った my 私の heart 心は her 彼女 own 自身のものだと

She 彼女は disdained; 軽蔑した I 私は complained 不平を言った Yet 依然として she 彼女は left 「leave

AB」で「A を B の状態のままにしておく」 me 私を overthrown:屈服させられた Careless（彼女は）

注意を払わずに of～に my 私の bitter ひどい grieving 悲嘆 Ruthless 無慈悲な bent 不誠実な to～に対し

て no relieving 和らげないこと Vows 約束 and と oaths 誓い and と faith 信頼は assured 保証され（古

語） Constant 継続した ever ずっと Changing 変わりつつある never 決してない Yet それでも she 彼女は

could not～できなかった be procured 獲得された To～することにおいて believe 信じる my 私の pains

苦痛が exceeding 並外れた From～から her 彼女の scant 不十分な respect 敬意 proceeding 継続してい

る O ああ that（「仮定・願望」を表す古語の that。） love 恋は should（仮定法現在の用法で、「仮説であ

る」ことを示す。特に訳さなくて良い。） have 持つ the art 技巧を By ～によって surmises 憶測

And や disguises 偽造 To ～するための（前出の the art を修飾する）destroy 壊す a faithful 忠実な heart;
心を Or それとも that（前の文の that と同じ）wanton 気まぐれな-looking 顔つきをした women 女たち
は Should（前の文の should と同じで、訳さなくて良い。）reward 報いる their 彼女たちの friends 友人
に as～として foemen 武装した敵 All 全ては（倒置文。これが主語でない）in vain 無駄に終わる is～で
ある ladies' 婦人方の love 恋は（この文の主語）-- Quickly 素早く choosèd.選ばれ Shortly すぐに loosèd;
解き放つ For というのは their 彼女たちの pride 誇りは is～である to～すること remove.取り除く Out,
終わりだ alas!ああ their 彼女たちの looks まなざしは first 最初は won 勝つ us, 男たちに And そして their
彼女たちの pride 誇りは hath（現在完了形を作る動詞。現代語 has）straight ぐずぐずせずに undone 撤
回した、取り消した us.男たちを To～へ thyself あなた自身（※失恋した女性に対して、この詩で初めて
2 人称で語りかけている。）the sweetest 最愛の Fair 美女よ! Thou あなたは hast（2 人称 thou の現在完
了形の動詞。）wounded 傷つけた And そして confounded 打ち負かした Changeless 不変の faith 信頼を
with～によって foul 醜い（古語）despair;絶望 And そして my 私の service 献身を（倒置文に注意）hast
（前出）envied 憎んだ（古語）And そして my 私を succours 助けることを（これも倒置文）hast（前出）
denièd.拒んだ By～によって thine あなたの error 過ち thou あなたは hast（前出）lost 失った Heart 心を
unfeignèd, 偽りのない Truth 真実を unstainèd.穢れなき And そして the swain 男を（古語）that（関係
代名詞）lovèd 愛した most, 最も More より assured 保証された（古語）in love 恋している than～より
も many 多くの者 Move より despised 軽蔑された in ～において love 恋 than よりも any 誰よりも For な
ぜなら my 私の heart, 心は though～だが set at～の状態になった nought 無 Since～だから you あなたが
will 望む（古語）it, それを（I will が省略?）Spoil 壊し and て kill 抹消する it!それを I 私は will～する
つもりだ never 決して～ない change 変える my 私の thought:考えを But でも griev 嘆く that（that 節の
目的語）beauty 美人が e'er (=ever) かつて was born 生まれた And そして so だから I 私は'll～しよう live
生きる as～として one 者 forlorn 孤独な

⑤教えてくれ、キューピッドよ

1 Say, Love if ever thou didst find,
A woman with a constant mind,
None but one,
And what should that rare mirror be,
Some goddess or some queen is she,
She and only she,
She only queen of love and beauty.

2 But could thy fiery poison'd dart
At no time touch her spotless heart
Nor come near?
She is not subject to Love's bow,
Her eye commands, her heart saith 'No',
No and only no
One no another still doth follow.

3 How might I that fair wonder know
That mocks desire with endless no
See the moon
That ever in one change doth grow
Yet still the same and she is so
So and only so
From Heav'n her virtues she doth borrow

4 To her then yield thy shafts and bow,
That can command affections so:
Love is free,
So are her thoughts that vanquish thee,
There is no queen of love but she,
She and only she,
She only queen of love and beauty.

「教えてくれ、キューピッドよ、今までお前は見たことがあるか、ずっと変わらない心を持った女性を。」

「一人だけいる。そんな世にも稀な、人々のお手本のごとき女性はこの方なのだ。」

彼女はある種の女神にして、女王なのだ。全くもって、エリザベス女王のような存在はほかにない。彼女だけが、愛と美の女王なのだから。」

「でも、お前の毒矢をもってしても、恋の幻惑を見させることができないのか、女王の穢れなき心に触れることも、近づくことさえもできないと？」

「女王は私の恋の弓のまとはならない。恋の誘惑に対して、彼女の目は命じ、心は『否（いな）』と言うのだ。」

ただもう恋には『否』しか突きつけられはしない。

それ以外のつづく言葉など、あるはずもないのだ。」

「俺にはとてもそんな美しい奇跡など、理解できそうにもない、エリザベス女王が恋の欲望の誘惑に対して絶えることのない嘲笑を浴びせている、という奇跡を。」「それなら、月を見るがいい。あれは一つのパターンで絶え間なく変形していくものだ。」

だが、月はそれでも依然として同じ月のままだ。」

女王は、まさしくあの月のような形で純潔の処女のままだであり、天上からその美德を借りてきているのだ。」

「それならば、お前の恋の弓矢を彼女にくれてやれば良いじゃないか、それで自在に恋の情念をあやつれるのだろう。」

「いやいや、キューピッドは何者からも自由だ、お前から指図は受けないし、エリザベス女王もまた等しく自由だよ、お前のような英国国民を支配する身だからね。まことに、エリザベス女王のような、愛の女王はまたとない。女王さまだけなのだ、彼女はこの世で唯一の愛と美の女王なのだから。」

Say 話してくれ Love 愛の神（キューピッド）よ if ～であるかどうかを ever かつて thou お前が didst
後の動詞 disclose を強調する古語の動詞。現代風のスペルは did。find 見出す A 一人の woman 女性 with
～を持った a （冠詞）constant 一貫している（古語）mind, 心 None but （熟語）～だけだ one, 一人 And
そして what 何なのか should （「潜在性」を表現する言葉。特に訳さなくて良い。） that あの rare まれな
mirror お手本、鑑。be, ～である Some 何かの goddess 女神だ（倒置文。これが主語でない。） or それ
とも some どこかの queen 女王 is である she, 彼女は She 彼女であり and また only だけ she, 彼女 She
彼女は only 唯一の queen 女王であり（※エリザベス 1 世のこと）of ～の love 愛 and と beauty. 美 But し
かし could できるのか thy あなたの fiery 強烈な poison'd 毒の入った dart （キューピッドの愛の）矢 At
no time どんな時も～でない touch 触れる her 彼女の spotless 穢れなき heart 心に Nor また～でない
come near 近づくことも？ She 彼女は is not ～ではない subject テーマ to ～にとって Love's キューピッ
ドの bow, 弓 Her 彼女の eye 目は commands, 命ずる her 彼女の heart 心は saith 言う（現代語 says）'No',
否 No 否 and そして only ただ no 否 One no another お互い～でない still 常に（古語）doth あとの動
詞を強調する動詞。現代語 does。follow. 続く How どのようにして might ～かも知れない I 私は that あ
の fair 美しい wonder 奇跡（＝エリザベス 1 世）know 理解する（「no」と押韻するために倒置。） That
（関係代名詞。エリザベス 1 世は）mocks あざ笑う desire 欲望を with endless 終わることなく no 否定
すること See 見よ the moon 月を That （関係代名詞、月は）ever ずっと in one change ひとつの変化
で doth （強調の動詞。現代語 does。）grow 成長する Yet still それでも依然として（この yet は古語で
still と同じ意味。）the same 同じ and で she 彼女は is ～である so そのようなもの and そして only ただ
so そのようにして From ～から Heav'n 天上 her 彼女の virtues 美德を she 彼女は doth （前出の強調）
borrow 借りている（やはり押韻のために倒置。）To ～に her 彼女 then それならば yield 与えよ thy お
前の shafts 矢 and と bow, 弓を That （関係代名詞、弓矢は）can ～できる command 命じる

Affections 愛を so:そのように Love キューピッドは is~である free,自由 So 同じである(倒置文) are~
である her 彼女の thoughts 思いも that (関係代名詞) vanquish 征服する thee,お前を There is no~は
いない queen 女王 of~の love 愛 but~以外 she,彼女 She 彼女 and と only she,彼女だけだ She 彼女は
only ただ一人の queen 女王だ of ~の love 愛 and と beauty.美

※愛の神キューピッドとの対話という形で、「処女王」エリザベス1世の純潔を讃える内容の詩です。一
見、明白にエリザベスへの「おべっか」ですが、果たしてダウランドの真意は？

⑥帰ってくるんだ、甘美な愛が

1. Come again! sweet love doth now invite
Thy graces that refrain
To do me due delight,
To see, to hear, to touch, to kiss, to die,
With thee again in sweetest sympathy.

2. Come again! that I may cease to mourn
Through thy unkind disdain;
For now left and forlorn
I sit, I sigh, I weep, I faint, I die
In deadly pain and endless misery.

5. But alas, my faith is ever true,
Yet will she never rue
Nor yield me any grace;
Her Eyes of fire, her heart of flint is made,
Whom tears nor truth may once invade.

6. Gentle Love, draw forth thy wounding dart,
Thou canst not pierce her heart;
For I, that do approve
By sighs and tears more hot than are thy shafts
Do tempt while she for triumphs laughs.

帰ってくるんだ、甘美な愛が今私を誘っているのだから。
お前の魅力、それはためらっているようだが、
私にもう一度、私がしてほしい喜びを与えてくれ、
それは会うこと、声を聴くこと、触れること、キスするこ
と、そして命果てるばかりの恍惚の快感をだ、
もう一度、お前とともに、心を通わせる甘美なひと時を。

帰ってくるんだ、そうすれば僕は君のむごい軽蔑によって
悲嘆にくれているのを止められるかも知れない。
今の僕は君に捨てられて、孤独に沈んでいるからだ、
僕は座り込み、泣き、弱り果て、命を終えてしまうのだ、
死ぬような苦痛と果てなきみじめさの中で。

しかし、ああ、私の彼女への真心はずっと本物だったのに、
いまだに彼女は私への同情心は全く見せようもしない。
また、私にいかなる好意も示そうもしないのだ。
彼女の瞳は火で出来ていて、心臓は火打石なのだろう、僕の
流す涙も誠意も、彼女の内部には一度も入ってゆかない。

優しいキューピッドよ、心臓に突き刺さるその矢を放ってく
れ、しかしお前には彼女の心臓は射抜けまい。
なぜなら、私はそれが出来ないことを立証しているからだ、
お前の矢よりももっと熱いため息と涙で
試みているのだ、しかし彼女は勝ち誇ったように笑うのだ。

Come 来い again!もう一度 sweet 甘美な love 愛が doth(強調の動詞。現代語 does)。 now 今 invite 招く
Thy お前の graces 優雅さ、魅力 that (関係代名詞) refrain 控える To～することを (refrain を修飾) do
なす me 私に due 本来あるべき delight,喜びを To see,会うという (delight を修飾、以下の to 不定詞も全
て同じ。) to hear,聞くという to touch,触れるという to kiss,キスするという to die,命果てるほどの (※シ
ェイクスピアの時代には die は「性的絶頂」も表した。) With～とともに thee お前 again もう一度 in～に
おいて sweetest 甘美な sympathy.共感 Come again! (前出) that (「仮定・願望」を表す古語の that。) I
私は may～かも知れない cease 止める to～することを mourn 嘆く Through～を通じて thy お前の unkind
むごい disdain;軽蔑 For なぜなら now 今 (「I am」が省略?) left 取り残され and そして forlorn 見捨て
られた I sit,私は座り I sigh,ため息をつき I weep,なき I faint,弱り I die 死ぬ (1 連と違って、こちらは文
字通り「命を失う」意味。) In～において deadly死ぬような pain 苦痛 and と endless終わりのない misery.
悲惨 But しかし alas,ああ my 私の faith 忠誠は is～である ever ずっと true,本物 Yet いまだに will～する
つもりだ she 彼女は never 決して～しない rue 後悔する (古語) Nor また～しない yield 与える me 私に
any どんな grace;好意 Her 彼女の Eyes 目は of～の fire,火 her 彼女の heart 心臓は of～で flint 石英、火打
石 is made,出来ている Whom (関係代名詞、彼女の目と心) tears 涙は nor また～ない truth 誠実さ (古
語) may～かも知れない once 一度も invade.中に入っていく Gentle 優しい Love,恋の神キューピッドよ
(Love と頭文字が大文字の L) draw 引いてくれ forth 前に thy お前の wounding 傷つける dart,矢を Thou
お前は canst not できない pierce 貫通する her 彼女の heart;心を For なぜなら I,私は that そのことを do
(強調) approve 立証する (古語) By～によって sighs ため息 and と tears 涙 more より hot 熱い than～
よりも are～である thy お前の shafts 矢は Do (強調) tempt 試みる while しかし she 彼女は for ~のため
の triumphs 勝利 laughs.笑う

⑦もうそれ以上泣くな、悲しい泉たちよ

1 Weep you no more, sad fountains;
What need you flow so fast?
Look how the snowy mountains
Heav'n's sun doth gently waste.
But my sun's heav'nly eyes
View not your weeping
That now lies sleeping,
Softly, softly, now softly lies sleeping.

2 Sleep is a reconciling,
A rest that Peace begets.
Doth not the sun rise smiling
When fair at e'en he sets?
Rest you then, rest, sad eyes,
Melt not in weeping
while she lies sleeping,
Softly, softly, now softly lies sleeping.

もうそれ以上泣くな、悲しい泉たちよ。
何の必要があって、あなた方はそんなに勢いよく涙を流すのか。
雪山を見るがいい、
天の太陽がいとも穏やかに雪を溶かしていく、そのさまを。
しかし私の愛しい太陽の、天上的なその瞳は
お前たちが泣いているのなど、見たりはしない。
あの人は今は横たわって眠っているのだ、
そっと、今はそっと、休みながら横たわっている。

眠りとは和解にほかならない、
平和が生み出す安らぎなのだ。
太陽が微笑みながら昇らないことがあろうか、
沈む時には純粋に美しい姿を見せるというのに？
ならばお休みなさい、ただお休みなさい、悲しい瞳よ。
涙の流れに溶けてしまっはいけない。
あの人が寝ている間に、
そっと、今はそっと、休みながら横たわっている間に。

Weep 泣きなさい you あなた方は（2 連で明らかなように、この詩の you とは目 eyes のこと。従って複

数形で訳す。） no more,もうそれ以上～しない sad 悲しい fountains;泉よ（涙を流す目の隠喩表現。）

What 何の need 必要で you あなた方は flow 流すのか so そんなに fast?速く Look 見なさい how どのよう

にして～かを the（定冠詞） snowy 雪の積もった mountains 山々が Heav'n's 天の sun 太陽 doth（強調の

意味） gently 穏やかに waste.壊す（この場合は雪を「溶かす」） But しかし my sun's 私の太陽の（恋しい

人の隠喩。） heav'nly 天上の eyes 目は View 見る not ことはない your あなた方が weeping 泣くのを That

あの人は now 今は lies 横たわって sleeping,眠っている Softly, softly, そっと now 今は softly そっと lies

（前出） sleeping.（前出） Sleep 眠りは is～である a reconciling,和解 A rest 休息 that（関係代名詞）

Peace 平和が begets.生み出す Doth する（現代語 does） not～しない the sun rise 日の出 smiling 微笑む

When～時には fair 美しく at ev'n（=even）純粋に（古語） he 太陽が sets?沈む Rest 休みなさい you あ

なた方は then,それから rest,休め sad 悲しい eyes,目よ Melt not 溶けてはならぬ in weeping 泣くことに

while～している間は she 彼女が lies 横たわっている sleeping,眠りながら Softly, softly,そっと now 今は

softly そっと lies 横たわって sleeping.眠っている

⑧時の神は静止して

Time stands still with gazing on her face,
stand still and gaze for minutes, houres and yeares, to her give place:
All other things shall change, but she remains the same,
till heavens changed have their course and time hath lost his name.
Cupid doth hover up and downe blinded with her faire eyes,
and fortune captive at her feet contemnd and conquerd lies.

When fortune, love, and time attend on
Her with my fortunes, love, and time, I honour will alone,
If bloodless envy say, duty hath no desert.
Duty replies that envie knowes herself his faithfull heart,
My setled vowes and spotless faith no fortune can remove,
Courage shall show my inward faith, and faith shall try my love.

時の神は静止して、彼女の顔に見とれる。

そうだ、時間よ止まれ。どうせ何分でも、何時間でも、何年でも、時は彼女に場所を譲ることになるからだ。
ほかの全てのことは変わりゆくものだが、彼女は美しいままの姿だ、
おそらく天の星々がその軌道を変えるまで、時間というものがその名を失って消滅するまでそのままだろう。
キューピッドは、彼女の美しい瞳以外のものが見えなくなって、空中をさまよってしまう。
そして幸運の女神は、彼女の足元に捕らえられ、蔑まれ、征服されて、横たわっているのだ。

幸運も、愛も、時さえも彼女にお仕えするのならば

彼女を称えようではないか、この私もたった一人で、みずからの運と愛と時間を使って。

もし血も涙もない「嫉妬」が、「敬意」など不毛だと言い張るのならば、

「敬意」はこう答える。「嫉妬」はみずから、私の信頼深き心は良く分かっているはずだ、と。

わが心に決めた誓いと穢れなきあの方への信頼は、どんな運命も消すことができず、

勇気はわが内なるあの方への信頼を示し、信頼はあの方へのわが愛を立証することだろう。

Time 時の神は stands 立っている still (副詞ではなく形容詞) 静かな with～しながら gazing 見つめてい
る on ～を her 彼女の face, 顔 stand 立て still 静かに and そして gaze 見つめよ for なぜなら minutes, 何分
でも houres 何時間でも and そして yeares, 何年でも to ～するための her 彼女に give 与える place: 場所を
All 全ての other ほかの things ことは shall～するはずだ change, 変わる but だが she 彼女は remains～の
ままである the same, 同じ者 (the + 形容詞 = 名詞) till ～までは heavens 天体が changed 変えた have (現
在完了形の have、倒置されている) their その course 軌道を and そして time 時が hath (現在完了形の

has の古い形) lost 失う his その name.名前を Cupid キューピッドは doth (強調) hover 浮かぶ up 上に
and そして down 下に blinded 盲目で with~によって her 彼女の faire 美しい eyes 瞳,and そして fortune
幸運の女神は captive 捕らえられ at~に her 彼女の feet 足元 contemnd 蔑まれ and て conquerd 征服され
江 lies.横たわる When~ならば fortune,幸運 や love, 愛や and そして time 時が attend on お仕えする Her
彼女を (倒置法で目的語が先に置かれている) with~によって my 私の fortunes, 幸運や love,愛や and そ
して time,時を I 私は honour 誉めたたえよう will~するつもりだ alone,一人で If もし bloodless 血も涙も
ない envy 嫉妬が say,言う duty 敬意は hath 持っている (現代語 has) no いや、 desert.不毛の地 ※文脈
から考えて「duty hath no desert (敬意には不毛がない)」ではなく、「no, duty hath desert(いや、敬意に
は不毛しかない)」の語順を変えた文か? Duty 敬意は replies 答えよう that~と envy 嫉妬は knows 分かっ
ている herself 自分自身 his 敬意の faithfull 信頼深き heart,心を My 私の settled 心に決めた vows 誓いを
(倒置文) and と spotless 穢れなき faith 信頼を no どんな~も・・ない fortune 運命も can できる remove,
取り除く Courage 勇気は shall~はずだ show 見せる my 私の inward 内なる faith,信頼を and そして faith
信頼は shall~はずだ try 立証する my 私の love.愛を

⑨今、ああ今こそ、どうしても

1 Now, O, now, I needs must part,
parting though I absent mourn.
Absence can no joy impart,
joy, once fled, cannot return.
While I live I needs must love,
Love lives not when hope is gone:
Now, at last, despair doth prove,
Love divided loveth none.
Sad despair doth drive me hence,
this despair unkindness sends.
If that parting be offence,
it is she which then offends!

今、ああ今こそ、どうしても別れなければならない。
別れにおいて、仮に私が嘆かなかったとしても、
あの人がいなかったことは何の喜びももたらさずはしない。
喜びは一度消え去れば、二度と戻ってくることはないのだ。
生きている限り、私は愛さねばならない、
希望がなくなれば、愛などなくなってしまうからだ。
ついに今、絶望はこう証明したのだ、
分け隔てられた愛情は何者も愛することはない、ということ。
悲しい絶望は私をここから追い払ってしまう。
そして、この絶望をよこしたのはあの人への薄情なのだ。
もし別れが罪であったならば、
罪を犯したのはあの人にほかならない。

2 Dear, when from thee I am gone,
Gone are all my joys at once.
I loved thee and thee alone,
in whose love I joyed once.
And, although your sight I leave,
sight wherein my joys do lie,
'Till that Death do sense bereave,
never shall affection die.

3 Dear, if I do not return,
Love and I shall die together.
For my absence never mourn,
whom you might have joined ever.
Part we must, though now I die,
Die I do to part with you;
Him despair doth cause to lie,
who both loved and dieth true.

愛しい人よ、あなたの元から私がいなくなったなら、
私の喜びも同時に消滅してしまう。
私はあなたを、あなただけを愛したし、
かつてはあなたの愛を独り占めにしていたのだ。
そして、今私はあなたのそばを離れてゆくが、
そこは私の喜びが生まれ出づる場所だ。
死神が私から五感を奪ってゆくその時まで
あの人への愛は決してなくなることはないだろう。

愛しい人よ、もし私が戻らぬのならば
愛も私も、ともに命が果てるだろう。
でも、私がいないことを嘆かないでくれ、
死ぬまで君のものであったかも知れない男のことを。
別れよう、たとえ私が死ぬとしても、
いや、君と別れるために私は死ぬのだ。
その男にこんな嘘をつかせているのは絶望のせいなのだ、
愛したことでも死ぬことでも「真実」を貫いたその男に。

Now,今だ O,ああ now,今こそ I 私は needs どうしても（名詞の「ニーズ」ではなく、副詞。） must
～しなければならない part,別れる parting 別れながら though もし（古語） I 私が absent～を遠ざけ
る、なくす mourn.嘆きを Absence 不在は can～できない no 何の～もない joy 喜びを（倒置） impart,
与える joy,喜びは once 一度 fled,消え去った cannot～できない return.戻ってくる While～の間は I 私
が live 生きている I 私は needs どうしても must～しなければならない love 愛する,Love 愛は lives not
生きることがない when もし hope 希望が is gone:去ってしまった（「移動」を表す be 動詞の現在完
了進行形） Now,今は at last,ついに despair 絶望は doth（強調） prove,証明する Love 愛は divided 分
けられた loveth 愛する（現代語 loves） none.誰も～でない Sad 悲しい despair 絶望は doth（強調）
drive 追い払う me 私を hence,ここから離れて（古語） this この despair 絶望を（倒置） unkindness
薄情が sends.送る If もし that（仮定の that 節） parting 別れが be～である offence 罪,it それは is～
である she 彼女 which（it is A which B で「BなのはAだ。」という構文） then それならば offends!
罪を犯すのは

Dear,愛しい人よ when もし from～から thee あなた I 私が am gone,去ってしまった（「移動」の現在完了進行形）Gone are 去ってしまった（倒置）all 全ての my 私の joys 喜びも at once.同時に I 私は loved 愛した thee あなたを and そして thee あなた alone,一人だけを in whose love あなたを愛することにおいて（whose は thee を受ける関係代名詞）I 私は joyed 喜びを覚えた once.かつては And,そして although～だが your あなたの sight 視界を I 私は leave,去る sight その視界は wherein 関係副詞。～するところ my 私の joys 喜びが do（強調）lie,ある'Till～まで that（that 節）～する時 Death 死神が do（強調）sense 感覚を（倒置）bereave,奪う never 決して shall きっと～する affection 愛情は die.死ぬ Dear, ,愛しい人よ if もし I 私が do not～しない return,帰ってくる Love 愛 and と I 私は shall～だろう die 死ぬ together とともに.For～を（後の mourn がこの場合は自動詞なので、目的語に前置詞を要する。）my 私が absence いないことを never 決して～しない mourn 嘆きなさい,whom 関係代名詞で「私を」you あなたは might かも知れない have joined 結ばれた、結婚した ever.ずっと、永遠に。Part 別れる（倒置）we 私たちは must,～しなければならない though もし now 今 I 私が die 死ぬ,Die 死ぬ（倒置）I 私は do（強調）to～のために part 別れる with～と you;あなた Him その男に（倒置、自分のこと）despair 絶望が doth（強調）cause～を引き起こす to～すること lie,嘘をつく who 関係代名詞。「その男は」both～でも・・・でも loved 愛した and そして dieth 死ぬ(現代語dies>true.真実で

⑩ ああ、月の恋人エンディミオンとともに フランチェスコ・ペトラルカ

Deh or foss'io col vago de la luna
adormentato in qua' che verdi boschi,
et questa ch'anzi vespro a me fa sera,
con essa et con Amor in quella spiaggia
sola venisse a starsi ivi una notte;
e l' dí si stesse il sol sempre ne l'onde.

ああ、月の恋人エンディミオン①とともに、私は緑の森のどこかで眠っていたのならば。そしていつもは晩課の前に彼女と恋の神と共にあの岸辺で私に夕べをもたらす月は、一晩中そこに一人でとどまるためにやって来た。そして昼の時間は停滞し、太陽はずっと波の中にいた。

Deh ああ（感嘆詞） or 今（ora の短縮形） foss'もし〜であったなら（fossi の短縮形、事実を反する仮定） io 私が col〜と共に（con il の収縮形） vago 恋人 de la〜の、現代語の della（di+la、英 of the） luna 月 adormentato 眠っている（現代語の addormentato）、 in 〜で qua' che どこかの（qualche の短縮形） verdi 緑の boschi 森, et そして questa 月は ch'（luna を受ける関係代名詞、英 who、che の短縮形） anzi〜の前に（現代語は anti） vespro 晩課 a 〜に me 私 fa〜を作る sera 夕べ,con〜と共に essa 彼女 et と con〜と共に Amor 恋の神、キューピッド（Amore の短縮形） in 〜に quella あの spiaggia 海岸（spiaggia と綴る） sola ひとりで venisse やって来た a 〜に starsi とどまる ivi そこに una notte 一晩中; e そして l'（定冠詞 il の短縮形） dí 昼間 si みずから stesse とどまった e そして l'（定冠詞 il の短縮形） sol 太陽（sole の短縮形） sempre ずっと ne l'〜に（現代語は nelle、in+le） onde 波

難解な詩です。①ですが、神話では月の女神セレーネーはエンディミオンに恋し、彼が老いていかないようにゼウスに懇願して永遠の眠りにつかせました。これにちなんで詩の主人公は、「エンディミオンのように永遠に眠っていたい」という死の願望をぼんやりと抱いています。なぜでしょうか？恐らく、いつもは「彼女と恋の神」を連れて「私」に夕べをもたらす月が、昨晩はひとりぼっちでやって来たからです。つまり、「私」は失恋したのでしょうかね。

⑪さまよえる思念よ

フランチェスコ・ペトラルカ

Vaghi pensier che così passo passo
scorto m'avete a ragionar tant' alto:
vedete che Madonna à'l cor di smalto,
sì forte ch'io per me dentro nol passo.
Ella non degna di mirar sì basso
che di nostre parole
curi, che'l ciel non vole,
al qual pur contrastando son già lasso;
onde come nel cor m'induro e inaspro,
così nel mio parlar voglio esser aspro.

さまよえる思念よ、あなた方が一步一步、
私をいとも高き理性に導いてくれた、
しかし見るが良い、我が貴婦人（ラウラ）がとても強いエナメル
の心を持っていて、私はその内側を通り抜け出来ないことを。
彼女が、天国からはるかに低い我らの言葉に注意を払うことはない、
なぜなら、天の神がそれを望んでいないからだ。
私は天と対立しつつも、もうすでに疲れている。
我が心の中で私がおのれを硬く、厳しくさせるにつれ、
我が詩の言葉において、厳しくありたいと思う。

Vaghi さまよっている pensier 考え（pensieriの語尾消失）che（関係代名詞）così このように passo passo 一步一步、少しずつ。（passo a passo とも言う。）scorto 案内してくれた m'私を（miの短縮形）avete あなた方は（近過去 avere + 過去分詞の、avereの2人称複数形）a〜へと ragionar 理性で推論する（ragionareの短縮形）tant' とても（tantoの短縮形）alto:高く（形容詞の副詞的用法）vedete あなた方には見える che〜ということ Madonna 貴婦人（ラウラ）はà持っている'l（定冠詞、ilの短縮形）cor 心 di〜の smalto, エナメル sì とても forte 強いので ch'（cheの語尾消失、sì〜che・・・で「とても〜なので・・・だ」）io 私は per〜によって me 私 dentro 内側に nol（non loの古語・短縮形）それをしない passo. 私は通り抜ける Ella 彼女は（文語）non 〜しない degna 価値があるとみなす di〜について mirar よく見る sì それほども basso 低く che〜のことを di〜について nostre 我々の parole 言葉 curi, 彼女が気を付ける che なぜなら'l ciel 天は（il cieloの短縮形）

Non～しない vole,望むから al (=a+il)～と qual (関係代名詞) 天の神 pur～ にも関わらず
 contrastando 対立する son 私は (sono の短縮形) già すでに lasso;疲れている onde ～とともに、～
 するにつれて (古語) come ～のように nel～の中で cor 心 m'私自身を induro 私は硬くする e そし
 て inaspro,厳しくさせる (現代語 inasprisco の古語?) così このようにして nel～の中で mio 私の
 parlar 言葉 voglio 私は望む esser～である aspro.厳しい

⑫ 美しい聖母よ

フランチェスコ・ペトラルカ

Vergine bella, che di sol vestita,
 coronata di stelle, al sommo Sole
 piacesti sí, che 'n te Sua luce ascose,
 amor mi spinge a dir di te parole:
 ma non so 'ncominciar senza tu' aita,
 et di Colui ch'amando in te si pose.
 Invoco lei che ben sempre rispose,
 chi la chiamò con fede:
 Vergine, s'a mercede
 miseria extrema de l'humane cose
 già mai ti volse, al mio prego t'inchina,
 soccorri a la mia guerra,
 bench'i' sia terra, et tu del ciel Regina.

太陽をまとい、星々の冠をかぶった美しい聖母よ、あなたは最も
 高きところの太陽（神）を喜ばせ、あなたの中に光（イエス）を
 潜ませた。愛は、私にあなたのことを話すように促す。私はあな
 たの助け、そして愛によってあなたの中に身を置く彼（イエス）
 の助けなしには、どのように始めるべきかを知らない。信仰心によ
 り彼女を呼び求めた人にいつも慈悲深く応えてきた彼女を、私
 は以下のように呼び求める。

「聖母よ、人間の極度の悲惨さがあなたを慈悲の心に駆り立てこ
 とがあったのならば、私の祈りに頭を下げ、私の戦いを助けに來
 てください。たとえ私が地上のはかない存在であり、あなたは天
 の女王であったとしても。」

Vergine おとめ、聖母 bella 美しい, che (前の単語を受ける関係代名詞、英 who) di～により sol 太陽 (sole
 の短縮形) vestita 着飾った, coronata 王冠をかぶった di～により stelle 星々, al ～に (前置詞 a+定冠詞
 il) sommo 最高の Sole 太陽 (神の隠喩?) piacesti あなたは気に入らせた sí みずからを, che (前の単語
 を受ける関係代名詞) 'n～の中に (in の短縮形) te あなた Sua その luce 光 (イエス・キリストの隠喩?)
 ascose 隠した, amor 愛は (amore の短縮形) mi 私を spinge 推し進める a (英語の to) dir 言う (dire の
 短縮形) di～について te あなた parole 言葉を:ma しかし non so 知らない 'ncominciar 始める
 (incominciare の短縮形) senza～なしで tu'あなたの (tua の短縮形)

aita 助け（現代イタリア語の aiuto）,et そして di～の（aita を修飾） Colui 彼（イエス？） ch（前の単語を受ける関係代名詞、che の短縮形） 'amando 愛しつつ in～の中に te あなた si pose 休息する. Invoco 私は呼ぶ lei 彼女を che（前の単語を受ける関係代名詞） ben 良く（bene の短縮形） sempre 常に rispose 反応した,chi～するところの人 la 彼女を chiamò 呼び求めた con～によって fede 信仰心: Vergine 聖母よ, s'もし（se の短縮形） a～へと mercede 慈悲 miseria 悲惨が extrema 極度の de l'～の（現代語では del、di+il） humane 人間の（現代語では umane） cose ことから già すでに mai かつて ti あなたを volse 変えた, al～に（前置詞 a+定冠詞 il） mio 私の prego 祈り t'inchina 頭を下げてください（現代語では t'は不要）, soccorri 助けてください a～において la（定冠詞） mia 私の guerra 戦い, bench'～ではあるが・・・（benché の短縮形） i'私は（io の短縮形） sia（英語の be 動詞、主観的意見を表現する接続法現在） terra 地上, et そして tu あなたは del～の（di+il） ciel 天（cielo の短縮形） regina 女王.（tu regina del ciel という語順を、韻を踏むために倒置。

⑬ ミサ曲

Kyrie

Kyrie eleison.

Christe eleison.

Kyrie eleison.

Gloria

Gloria in excelsis Deo.

Et in terra pax

hominibus bonae voluntatis.

Laudamus te,

benedicimus te,

adoramus te,

glorificamus te.

Gratias agimus tibi

propter magnam gloriam tuam.

Domine Deus,

Rex coelestis,

Deus Pater omnipotens.

Domine Fili unigenite,

Jesu Christe.

Domine Deus,

Agnus Dei,

Filius Patris.

Qui tollis peccata mundi,

miserere nobis.

Qui tollis peccata mundi,

suscipe deprecationem nostram.

Qui sedes ad dextram Patris,

miserere nobis.

Quoniam tu solus sanctus

Tu solus Dominus,

Tu solus altissimus,

Jesu Christe.

Cum Sancto Spiritu

in gloria Dei Patris,

Amen.

Credo

Credo in unum Deum,

Patrem omnipotentem,

factorem coeli et terrae,

visibilium omnium

et invisibilium.

キリエ

主よ、憐れんでください。

キリストよ、憐れんでください。

主よ、憐れんでください。

グロリア

天のいと高きところでは神に栄光がありますように。

そして地上では、平和が

善意の人々にありますように。

私たちはあなたを賛美します、

あなたを賞賛します、

あなたに祈りを捧げます、

あなたに栄光がありますように。

私たちはあなたに感謝をささげます、

あなたの大きな栄光のゆえに。

神なる主よ、

天の王よ、

全能の父である神よ、

独り子である主よ、

イエス・キリストよ。

神なる主よ、

神の小羊よ、

父の御子よ。

世の罪を取り除かれるお方よ、

私たちを憐れんでください。

世の罪を取り除かれるお方よ、

私たちの願いを受け入れてください。

父の右に座すお方よ、

私たちを憐れんでください。

なぜならば、あなたのみが聖、

あなたのみが主、

あなたのみがいと高き方であるからです、

イエス・キリストよ。

あなたは聖霊とともに、

父なる神の栄光のうちにあられます。

アーメン。

クレド

私は信じます、唯一である神を、

全能の父を、

天と地の創り主を、

すべての目に見えるものと

見えぬものの創り主を。

Et in unum Dominum
Jesum Christum,
Filium Dei unigenitum,

Et ex Patre natum,
ante omnia secula,
Deum de Deo,
lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero,
Genitum, non factum,
consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines
et propter nostram salutem,
descendit de coelis.
Et incarnatus est
de Spiritu sancto
ex Maria virgine:
et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis
sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.
Et resurrexit tertia die,
secundum scripturas.
Et ascendit in coelum:
sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria,
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum sanctum
Dominum et vivificantem:
qui ex Pater Filioque procedit,
Qui cum Patre et Filio
simul adoratur,
et conglorificatur:
qui loctus est per prophetas.
Et unam sanctam
catholicam et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unam baptisma
in remissionem peccatorum.
Et expecto
resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi seculi,
Amen.

そして（信じます）、唯一である主を、
イエス・キリストを、
神の独り子を、
父からお生まれになり
世々に先だった方を。
神からの神、
光からの光、
まことの神からのまことの神、
生まれたが創られたのではなく、
父と本質を共有し、
万物がそのゆえに創られた方を。
この方は、私たち人間のために、
また私たちの救いのために、
天から下られました。
そして肉体を受け、
聖霊によって
処女マリアから。
そして人と成られました。
さらに私たちのために十字架につけられました、
ポンテオ・ピラトのもとで。
苦しみを受け、埋葬されました。
そして三日目によみがえられました、
聖書にある通りに。
そして天に上り、
父の右に座されました。
そして栄光に満ちてふたたび到来し、
生者と死者を裁かれるでしょう。
その統治は、終わることがないでしょう。
そして（信じます）、聖霊を、
主にして生命を与える者を。
それは父と子から発し、
父と子と
変わりなく拝せられ、
栄光を共にします。
それは預言者たちによって語られたもの。
そして（信じます）、ひとつの聖なる
普遍的な、使徒伝来の教会を。
唯一である洗礼への信仰を告白します、
それは罪の許しを得させるもの。
そして待ち望みます、
死者の復活を、
来るべき世の命を。
アーメン。

Sanctus

Sanctus, sanctus, sanctus,

Dominus Deus sabaoth.

Pleni sunt coeli et terra gloria ejus.

Osanna in excelsis.

Benedictus qui venit

in nomine Domini.

Osanna in excelsis.

Agnus dei

Agnus Dei,

qui tollis peccata mundi,

miserere nobis.

Dona nobis pacem.

サンクトゥス

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神なる主は。

天と地はその栄光に満ちています。

いと高きところにホサナ。

祝福されますように、
主の名においていらっしゃる方が。

いと高きところにホサナ。

神の子羊

神の小羊よ、

世の罪を取り除いてくださるお方よ。

私たちを憐れんでください。

私たちに平和を与えてください。

翻訳：中井英文（コールス・ヨービス監修、西宮市立西宮東高等学校教諭）